

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600022		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	あおば会 グループホームやすらぎの家(南)		
所在地	愛知県あま市坂牧向江70番地		
自己評価作成日	令和1年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2395600022-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和1年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症が重度化された方が多くなっていますが、職員は常に笑顔で目を合わせた声掛けを心掛け、ご本人の尊厳を守り不安を感じずに笑って過ごせる時間を増やしてもらえる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

あま市でも大治町に隣接し、田畑や住宅が点在する中に見、民家のような木造1階建てのグループホームが建っている。木のぬくもりを取り入れ落ち着いた雰囲気を持つ2ユニットのホームは、左右対称に作られ各ユニット間の居間と居間の間はパーティションで仕切られている。行事やイベント時はパーティションを移動し、広く使えるワンルームとし皆が楽しめる場所となっている。開設12年目を迎えるホームは、入居者の認知症状が重度化していく中で、職員は理念の「家庭的な日常生活を通して、安心と尊厳ある日常生活を営む」を共有し、常に笑顔で視線を合わせた声掛けをしながら、本人が不安を感じることなく笑って過ごせる時間をより多く持てるような支援に努めている。近年は地域社会も変貌していき地域行事が少なくなっているが、地域の文化祭や雛祭りを見に行ったり、保育園児や地域ボランティアの訪問を楽しみにしている。また、日々の散歩で行き交う近隣の方々との挨拶は積極的に行う等地域交流を大切にしている。入居者は明るいリビングで、洗濯物たたみや掃除を職員と一緒にしたり、テレビを観たり、仲良し同士おしゃべりしたり、歌や体操のレクリエーションに参加しながら楽しくゆったり過ごしている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時にミーティングを行い利用者主体の介護の実践につながるよう話している。	理念は玄関や事務室など誰もが目にしやすい場所に掲示し、常に意識するようにしている。理念に基づいた支援が行なわれているかを毎日のミーティング時に話し合い、理念を共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入は以前からしている。回覧物も再開してもらい地域の情報はもっている。日々の散歩などで近隣の方との挨拶から交流を図っている。地域のボランティア団体からの訪問も活発。	町内会にか加入している。ホームにも回覧物の再開があり、運営推進会議を含めて地域の情報を得やすくなった。町内会の行事が年々少なくなっていく中で、地区長により区の会合へ参加の声掛けもあり、更に地域との交流の深まりを模索している。地域の福祉祭りや隣町のつるしびな祭りに出かけたり、日々の散歩、保育園やボランティアの来訪などで交流を重ねている。学生の体験学習も予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議へ地区長、民生委員の参加をお願いできており認知症グループホームの現状や認知症の方への理解をしてもらえるように話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月間の状況の報告、取組状況の報告をしており活発な意見をもらい運営に活かしている。	入居者代表や家族、市や包括支援センター職員、地区長、民生委員、認知症知見者等の参加があり年6回開催している。運営や活動報告、身体拘束廃止委員会の報告等を行い、参加者からは地域の情報や意見、要望、提案などがあり、その場で話し合ったり職員間で協議しサービス向上に活かしている。家族の参加が少ない。	開催曜日を変更等、家族の参加を増やすための工夫を検討しているが改善には至っていない。入居時に運営推進会議の意義を説明し出席を依頼したり、協力医などによる講話や次回開催時のテーマ等を知らせるなどの工夫を引き続き検討されることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議への参加や地域包括の研修、利用者の相談や日々の連携をもっている。	運営推進会議に担当者が毎回出席し、会議後にも情報交換やホームの取り組みについて話し合う時間を設けている。介護保険の申請や代行業務、生活保護関係等で担当窓口を訪れ情報交換と共に指導やアドバイスをもらう等協力関係を築いている。市や名介研が開催する研修に参加し職員のレベル向上に活かす努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在玄関は終日施錠をしているが、鍵を開けて出でいられる方や事故、迷子の危険や外からの不審者の心配もあり日中でも開錠は検討していない。それ以外は拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会で身体拘束の資料を基に話し合いを重ね、拘束に対する意識を高めている。拘束とは何かを話し合う中で、言葉による拘束には特に注意を払い、周知徹底を図るようにしている。運営推進会議等で報告をし意見やアドバイスをもらっている。事故防止のために玄関は施錠しているが、玄関のソファーに腰掛けを外を眺めたりユニット間の行き来など職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止はもちろんのこ、威圧的な声掛けや上から目線の声掛け、子供扱いのような言葉は使わないように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、必要を感じたり家族から相談を受けた際は家族や福祉事務所と連携して支援を受けられるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を見てもらいながら説明をし、疑問や質問はないかを聞きながら理解の確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の推進会議への参加での意見、要望を出してもらっている。個々に来所して貰った際にも話を聞く機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時にミーティングを合わせて行っており、常勤、非常勤や入って間がない職員からも意見や提案をもらいやすい状況になり、今出来る事はやってみる。を実行している。	毎日の申し送り時にミーティングを合わせて行い、職員全員からの意見や提案を聞く機会を作り、話し合いの結果、良いと思われることはすぐ実践する試みをしている。職員が向上心を持って働けるために評価シートを作成している。管理者はシートを基に要望や意見、悩み等を聞き職員の意見を活用し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務形態、所持資格からの基本給与以外に努力値、期待値からの手当や自己評価をしてもらい自己啓発につながるような書籍や資格取得への補助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の勤務状況から個々の職員の、声掛け、介助方法、知識、判断力、チームケアの理解などを把握している。本人の希望や必要だと思う研修を内部、外部問わず進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保険者主催のグループホーム協会、愛知県、全国グループホーム協会に加入しており開催される講習、研修への参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	転居する事や共同生活をする事は自分に振り替えても不安で当たり前である事を念頭に置き、安心して話をしてもらえ関係を先ずは構築していくように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同居、別居の差はあれど新しい場所へ家族を預けるに至った経緯や思いを受け止め信頼関係を結べるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談受付時に本人、家族の現状を教えてもらおうと共に施設の現入居者の状況も伝え話していく中で他のサービス情報や他に適切な事業所があれば利用に向けて連携を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護してもらう人、介護する人ではなく、あなたの笑顔で癒される。元気をもらえる。今日も一緒に笑いましょう。の気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な方とは季節の衣替えに関わってもらっている。その中で本人の衣類サイズの変化や好みの服などを職員から聞いたり家族から教えてもらったりできている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚や友人の訪問をととても喜ばれるので、居室でゆっくり話してもらえるような支援や気楽に来てもらえる雰囲気を作るように努めている。	家族や親せき、友人などの来訪者や年賀状、電話の取り次ぎなど、馴染みの環境を断ち切らない様支援に努めている。、新しい馴染み作りとして近くの神社へ散歩に出かけたり、近隣の喫茶店へ出かけている。家族と墓参りや外食など馴染みの場所へ出向く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や生活歴を把握し、良好な関係を無理に作るうとはせず職員が間に入り話をしたり一緒に歌を歌ったりしながら利用者様同士が顔を合わせると笑いあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能であれば本人へ面会に行ったり、家族からの連絡や相談に随時応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を伝えられる方が現状少ないが、家族からの情報や本人との日々の会話、表情から本人の意向をくみ取れるように支援している。	日常の支援の中から思いや希望を把握するようにしている。入浴時や入眠前の1対1の関わりの時などの会話の中から情報を得ることが多く、ケアにつなげている。思いの表出が少ない方からは、家族からの情報や表情、しぐさ等から、本人の視点に立って把握し、日々の記録に残し職員間で話し合い、共有して支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャー、相談員からも情報をもらい把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録に本人の行動、会話や表情を記載している。業務日誌への転載と毎日の申し送りで状況の伝達を行い職員全てが把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々職員間で話し合いを行っており、「今出来る事は直ぐにやってみよう」を実践している。本人の状況変化の確認、家族との話し合いをしながら介護計画へ反映させている。	モニタリングは月1回、基本的に短期目標は6か月、長期目標は1年の見直しとしている。日々の申し送りやミーティングで情報交換を行っている。ケアマネ連絡ノートを活用し、支援計画が、本人に寄り添ったものになっているかを評価につなげている。家族とも話し合いをしながら現状に即した介護計画を作成している。状況に合わせて随時見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の会話や表情を記録している。個々への介助の方法や声掛けの仕方などを職員間で教えあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を把握し、その時に応じて介護サービスの利用を提案したり、職員が支援することで家族の負担を軽減するなど努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の催し物への参加、回覧板を再開してもらなど地域との繋がりを広げるべく努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の意向を聞き納得が得られる方法と家族の負担にも留意して適切な医療を継続して受けもらえるように支援している。	入居時にかかりつけ医が協力医が希望を聞いている。協力医による内科の往診が月2回（往診医は訪問診療専科であり、いつでも対応が可能）、精神科と歯科が月1回、歯科衛生士による口腔指導が月2回ある。訪問看護ステーションによる週1回の健康管理及び医療関係間の情報提供調整も行っており、24時間、365日適切な医療が受けられるよう支援している。専門医は家族対応であるが必要時支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の1つが経営する看護ステーションからの訪問看護を受けている。他の協力医からの指導や、往診時の状況、日々の状況などを伝え、相談もその都度行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を速やかに送り、入院中は面会時に病状、状況などを迷惑にならないよう配慮しながら病院関係者から聞き取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に希望を聞きながら重度化、終末期の説明と施設で出来る事、出来ない事を伝える。状況に応じた本人にとって最良の支援と家族の負担、心情にも留意して支援していく。	「重度化した場合における対応にかかる指針」をもとに入居時に希望を確認している。重度化が予想される場合は早い段階から家族や医療関係者と話し合い、事業所で出来ることを十分説明しながら対応に努めている。今後、看取りをしていく場合、今、事業所で出来る最良の支援を行いたいと話している。	「重度化した場合における対応にかかる指針」の中に「看取りに関する指針」も挙げられている。具体的な支援内容を盛り込んだ職員教育を実施し、どの職員も、急な状態変化や看取りの場面でも落ち着いて対応できることを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	持病などから救急対応となる状態は職員に周知している。緊急時は家族、管理者、主治医への連絡をし指示を仰ぐ。緊急対応や事故発生時のマニュアルを備え、応急手当の方法は訪問医師、訪問看護師から聞き職員へ周知しているが実践力を身に付ける努力をして行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方へ災害時の協力を依頼している。夜間想定避難訓練が行えていない為、早々に夜間想定訓練を行う。	災害時の地域との協力体制については、近隣住民に協力依頼をしたり、近くにある老人養護施設との協力体制を築いている。あま市が開催する介護施設合同会議に参加し他施設との連携を図ると共に災害時の地域情報を得ている。事業所が災害時受け入れ施設となっていることもあり、地域との連携にも積極的に取り組んでいる。夜間の避難訓練を計画している。備蓄は3日分、水や食料等準備し有効期限のチェックもしている。	近年、災害対策が叫ばれている中、年2回の災害訓練の内1回は消防署の立会いの下で行い、専門的立場からのアドバイスを受けると共に職員全員への周知を図り、いざという時に冷静沈着な行動が取れるような対策を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来なくなった事を気に病まれないように今出来ている事を褒めたり、一緒に喜んだりするように心掛けている。排泄への声掛けは小さな声で耳元で行っている。	「人生の先輩」としての対応を基本に日々のケアに努めている。特に、ひとり一人の人格を尊重した言葉使いに留意したり視線を同じくした対応に心がけている。出来たことを一緒に喜んだり、出来なくなったことを悩まない様に一緒に何かをする等、自尊心やプライドに気配りしながらの対応と共に、職員間で振り返りを行いお互いに注意し合いながらケアに努めている。	自宅で暮らしているような環境を保持するのであれば、トイレのカーテンや自室のドアの開けっ放しは気になるところであり、長年の課題となっている。日常の「慣れた風景」にならぬよう、原点に戻って皆で話し合い、改善に向けた取り組みを継続されることを望みたい。共同生活の場であり、特にトイレはプライバシーの面からも改善を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方が多いが、おやつ時の飲み物などを2者択一にして選んでもらったりして生活の中で可能な方は希望を出す、自分で決めるなどをしてもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況と安全を考慮した中で、希望を伝えてくれる方、伝える事が困難な方それぞれの方のペースを崩さないように笑顔が多く見える一日を過ごしてもらえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員による散髪支援、毎日の整髪、髭剃りの支援。衣類の購入困難な方へは買い物の支援や敬老会やクリスマスの際に靴下などのプレゼントをしている。髪の長い方へは編み込みや三つ編みの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで食事をし、会話をしながら介助の支援をしている。状況に合わせてスプーン、フォークや手で食べる事を他の方に気兼ねが無く楽しんで食べてもらえるように支援している。	委託業者より調理済みの食事が届けられる。温めて盛り付けをし提供している。主食とみそ汁は手作りし、食材も個々の喫食能力に合わせて大きさや形状を変えて、周囲に気兼ねなく食べられる工夫をしている。入居者は保有能力に合わせて片付け等を職員と一緒にしている。職員も同じテーブルを囲み、見守りや介助、雰囲気作りや気配りを行っている。月に1度の調理レクやお楽しみのおやつ作りでは入居者の好みを取り入れ、買い物から調理まで職員と一緒に楽しむ行事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に毎日の水分、食事摂取の量を把握しており、水分制限、水分不足など個別に必要な支援をしている。水分摂取を嫌う方へは多種の飲み物の用意やゼリーでの接種をしえん。嚥下や状態に応じておかゆや刻み、ミキサーの支援。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に歯磨き、入れ歯洗浄の支援をしている。入れ歯に関して就寝時に預かり毎晩消毒を支援している。訪問歯科から歯科衛生士による口腔指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の意思表示ができない方へも排泄間隔、習慣の把握から声掛け、トイレ介助を支援して、本人の負担とならない限りトイレでの排泄をしてもらう様に支援している。	排泄チェック表を活用しトイレでの排泄を習慣付けることで、終日又は昼間のみ布パンツで過ごすことが可能となった方や、尿意、便意の意思表示が出来ない方でもトイレでの排泄が出来るようになった方もいる。便秘予防では、運動やマッサージ、水分摂取等組み合わせなるべく薬に頼らない支援に心がけている。排泄への声掛けは個々に応じて工夫をし、プライバシー確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を職員全員が把握しており、状況に合わせて運動やマッサージを行ったり、水分や服薬の支援、ゆっくりとトイレに座ってもらう支援などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	排便の状況に合わせた支援はできる限り行っている。ゆず、しょうぶ、温泉の素などを楽しんでもらっている。入浴を拒む方へは好きな音楽をかけ歌いながら入ってもらったり、職員を替えて声掛け、ご家族からの声掛けなど工夫している。	入浴は基本週3回実施し、希望があれば応じている。入浴のない日は足浴を楽しんでいる。冬季はヒートショック等に配慮したり、ゆず湯やしょうぶ湯など季節の湯や温泉の素など入浴剤などで楽しむこともある。入浴を拒む方には、日時や介助者を変えたり、医師の協力を得るなどの工夫をし、納得して入っていただくように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めずご本人のタイミングで休んでもらえるよう支援している。食後や入浴後に本人の状態に応じて居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用の説明書をフロアーに置き、誰もが直ぐに確認できる。処方薬の変更時には各職員への伝達を行っている。状況に変化があった際は処方医師へ報告し、指示を受けている。薬に関しては調剤薬局と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ等を職員が補助しながら行ってもらったり、塗り絵、計算、編み物などや歌や踊りを楽しんでもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ近所の神社へお参り、近所の花を見に散歩へ1人や2人ごとに出かける。不穩になられた際の気分転換にも散歩の支援をしている。	介護度の重度化に伴ない、毎日の外出は難しくなっているが、時間を見つけては近所の神社や花を見に散歩に行っている。不穩症状が見られる入居者とは1対1で外の空気を吸い気晴らしを兼ねて外出することもある。時には、調理レクの買い物に職員と一緒に掛けレジに並ぶこともある。墓参りや希望の外出等は家族の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族が行って下さっており、個々の金銭は所持は無い。外出と金銭のやり取りが可能な方には職員との買い出しの際に金銭の受け渡しをしてもらう様に支援している。ご家族との食事や散歩も行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時やご家族、友人からの電話で話してもらったり、届け物があつた際の連絡などや毎年賀状のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所に季節の飾りや外出、行事の写真を貼っている。各トイレの近くに空気清浄機を設置し、換気扇と2重に消臭を行っている。車いすでの移動が行いやすいようテーブルの配置を柔軟に変えている。	木造作りで天窓があり明るくやわらかな雰囲気がある。天窓には直射日光を避ける工夫がされている。左右ユニットの間はパーティションで仕切られているが、移動させると広いワンフロアの共有スペースとなりイベント等に便利な空間となる。対面式のキッチンからは入居者の気配を一目で見渡すことが出来る。壁面には季節の飾り物や楽しく過ごす行事の写真が貼られている。温度や湿度、音、特に臭いには空気清浄機や換気扇等を使用し対策をしている。入居者はそれぞれの居間でテレビを観たり、仲間同士おしゃべりをしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファの好きな場所で過ごしてもらえ。独りの空間としては玄関のソファや掃き出し窓から外を見て過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の使い慣れた家具の持ち込みをお願いしている。ご本人の状況に合わせた居室づくりをご家族と相談しながら行っている。	ベットやカーテン、エアコン等は備え付けとなっている。筆筒や小物など思い入れのあるものを持ち込んだり、お気に入りのポスターや写真、手作りの作品等を飾り、自分らしい空間となっている。職員と一緒に掃除をしたり整理整頓をして、清潔で安全な環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室か分かり易いように居室の入り口に名前以外にも個別に動物の写真や貼り絵をつけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600022		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	あおば会 グループホームやすらぎの家(北)		
所在地	愛知県あま市坂牧向江70番地		
自己評価作成日	令和1年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2395600022-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和1年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症が重度化された方が多くなっていますが、職員は常に笑顔で目を合わせた声掛けを心掛け、ご本人の尊厳を守り不安を感じずに笑って過ごせる時間を増やしてもらえる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

あま市でも大治町に隣接し、田畑や住宅が点在する中に見、民家のような木造1階建てのグループホームが建っている。木のぬくもりを取り入れ落ち着いた雰囲気を持つ2ユニットのホームは、左右対称に作られ各ユニット間の居間と居間の間はパーティションで仕切られている。行事やイベント時はパーティションを移動し、広く使えるワンルームとし皆が楽しめる場所となっている。開設12年目を迎えるホームは、入居者の認知症状が重度化していく中で、職員は理念の「家庭的な日常生活を通して、安心と尊厳ある日常生活を営む」を共有し、常に笑顔で目線を合わせた声掛けをしながら、本人が不安を感じることなく笑って過ごせる時間をより多く持てるような支援に努めている。近年は地域社会も変貌していき地域行事が少なくなっているが、地域の文化祭や雑祭を見に行ったり、保育園児や地域ボランティアの訪問を楽しみにしている。また、日々の散歩で行き交う近隣の方々の挨拶は積極的に言う等地域交流を大切にしている。入居者は明るいリビングで、洗濯物たたみや掃除を職員と一緒にしたり、テレビを観たり、仲良し同士おしゃべりをしたり、歌や体操のレクリエーションに参加しながら楽しくゆったり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時にミーティングを行い利用者主体の介護の実践につながるよう話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入は以前からしている。回覧物も再開してもらい地域の情報はもっている。日々の散歩などで近隣の方との挨拶から交流を図っている。地域のボランティア団体からの訪問も活発。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議へ地区長、民生委員の参加をお願いできており認知症グループホームの現状や認知症の方への理解をしてもらえるように話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月間の状況の報告、取組状況の報告をしており活発な意見をもらい運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議への参加や地域包括の研修、利用者の相談や日々の連携をもっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在玄関は終日施錠をしているが、鍵を開けて出ていかれる方や事故、迷子の危険や外からの不審者の心配もあり日中でも開錠は検討していない。それ以外は拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止はもちろんのこと、威圧的な声掛けや上から目線の声掛け、子供扱いのような言葉は使わないように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、必要を感じたり家族から相談を受けた際は家族や福祉事務所と連携して支援を受けられるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を見てもらいながら説明をし、疑問や質問はないかを聞きながら理解の確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の推進会議への参加での意見、要望を出してもらっている。個々に来所して貰った際にも話を聞く機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時にミーティングを合わせて行っており、常勤、非常勤や入って間がない職員からも意見や提案をもらいやすい状況になり、今出来る事はやってみる。を実行している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務形態、所持資格からの基本給与以外に努力値、期待値からの手当や自己評価してもらい自己啓発につながるような書籍や資格取得への補助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の勤務状況から個々の職員の、声掛け、介助方法、知識、判断力、チームケアの理解などを把握している。本人の希望や必要だと思う研修を内部、外部問わず進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保険者主催のグループホーム協会、愛知県、全国グループホーム協会に加入しており開催される講習、研修への参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	転居する事や共同生活をする事は自分に振り替えても不安で当たり前である事を念頭に置き、安心して話をしてもらえ関係を先ずは構築していくように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同居、別居の差はあれど新しい場所へ家族を預けるに至った経緯や思いを受け止め信頼関係を結べるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談受付時に本人、家族の現状を教えてくださいと共に施設の現入居者の状況も伝え話していく中で他のサービス情報や他に適切な事業所があれば利用に向けて連携を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護してもらう人、介護する人ではなく、あなたの笑顔で癒される。元気をもらえる。今日も一緒に笑いましょう。の気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な方とは季節の衣替えに関わってもらっている。その中で本人の衣類サイズの変化や好みの服などを職員から聞いたり家族から教えてもらったりできている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚や友人の訪問をととても喜ばれるので、居室でゆっくり話してもらえような支援や気楽に来てもらえる雰囲気を作るように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や生活歴を把握し、良好な関係を無理に作るうとはせず職員が間に入り話をしたり一緒に歌を歌ったりしながら利用者様同士が顔を合わせると笑いあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能であれば本人へ面会に行ったり、家族からの連絡や相談に随時応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を伝えられる方が現状少ないが、家族からの情報や本人との日々の会話、表情から本人の意向をくみ取れるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャー、相談員からも情報をもらい把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録に本人の行動、会話や表情を記載している。業務日誌への転載と毎日の申し送りで状況の伝達を行い職員全てが把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々職員間で話し合いを行っており、「今出来る事は直ぐにやってみよう」を実践している。本人の状況変化の確認、家族との話し合いをしながら介護計画へ反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の会話や表情を記録している。個々への介助の方法や声掛けの仕方などを職員間で教えあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を把握し、その時に応じて介護サービスの利用を提案したり、職員が支援することで家族の負担を軽減するなど努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物への参加、回覧板を再開してもらいなど地域との繋がりを広げるべく努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の意向を聞き納得が得られる方法と家族の負担にも留意して適切な医療を継続して受け取ってもらえるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の1つが経営する看護ステーションからの訪問看護を受けている。他の協力医からの指導や、往診時の状況、日々の状況などを伝え、相談もその都度行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を速やかに送り、入院中は面会時に病状、状況などを迷惑にならないよう配慮しながら病院関係者から聞き取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に希望を聞きながら重度化、終末期の説明と施設で出来る事、出来ない事を伝える。状況に応じた本人にとって最良の支援と家族の負担、心情にも留意して支援していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	持病などから救急対応となる状態は職員に周知している。緊急時は家族、管理者、主治医への連絡をし指示を仰ぐ。緊急対応や事故発生時のマニュアルを備え、応急手当の方法は訪問医師、訪問看護師から聞き職員へ周知しているが実践力を身に付ける努力をして行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方へ災害時の協力を依頼している。夜間想定避難訓練が行えていない為、早々に夜間想定訓練を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来なくなった事を気に病まれないように今出来ている事を褒めたり、一緒に喜んだりするように心掛けている。排泄への声掛けは小さな声で耳元で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方が多いが、おやつ時の飲み物などを2者択一にして選んでもらったりして生活の中で可能な方は希望を出す、自分で決めるなどをしてもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況と安全を考慮した中で、希望を伝えてくれる方、伝える事が困難な方それぞれの方のペースを崩さないように笑顔が多く見える一日を過ごしてもらえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員による散髪支援、毎日の整髪、髭剃りの支援。衣類の購入困難な方へは買い物の支援や敬老会やクリスマスの際に靴下などのプレゼントをしている。髪の毛の長い方へは編み込みや三つ編みの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで食事をし、会話をしながら介助の支援をしている。状況に合わせてスプーン、フォークや手で食べる事を他の方に気兼ねが無く楽しんで食べてもらえるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に毎日の水分、食事摂取の量を把握しており、水分制限、水分不足など個別に必要な支援をしている。水分摂取を嫌う方へは多種の飲み物の用意やゼリーでの接種をしえん。嚥下や状態に応じておかゆや刻み、ミキサーの支援。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に歯磨き、入れ歯洗浄の支援をしている。入れ歯に関して就寝時に預かり毎晩消毒を支援している。訪問歯科から歯科衛生士による口腔指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の意思表示ができない方へも排泄間隔、習慣の把握から声掛け、トイレ介助を支援して、本人の負担とならない限りトイレでの排泄をしてもらう様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を職員全員が把握しており、状況に合わせて運動やマッサージを行ったり、水分や服薬の支援、ゆっくりとトイレに座ってもらう支援などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	排便の状況に合わせた支援はできる限り行っている。ゆず、しょうぶ、温泉の素などを楽しんでもらっている。入浴を拒む方へは好きな音楽をかけ歌いながら入ってもらったり、職員を替えて声掛け、ご家族からの声掛けなど工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めずご本人のタイミングで休んでもらえるよう支援している。食後や入浴後に本人の状態に応じて居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用の説明書をフローアに置き、誰もが直ぐに確認できる。処方薬の変更時には各職員への伝達を行っている。状況に変化があった際は処方医師へ報告し、指示を受けている。薬に関しては調剤薬局と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ等を職員が補助しながら行ってもらったり、塗り絵、計算、編み物などや歌や踊りを楽しんでもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ近所の神社へお参り、近所の花を見に散歩へ1人や2人ごとに出かける。不穩になられた際の気分転換にも散歩の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族が行って下さっており、個々の金銭は所持は無い。外出と金銭のやり取りが可能な方には職員との買い出しの際に金銭の受け渡しをしてもらう様に支援している。ご家族との食事や散歩も行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時やご家族、友人からの電話で話してもらったり、届け物があつた際の連絡などや毎年賀状のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所に季節の飾りや外出、行事の写真を貼っている。各トイレの近くに空気清浄機を設置し、換気扇と2重に消臭を行っている。車いすでの移動が行いやすいようテーブルの配置を柔軟に変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファの好きな場所で過ごしてもらえ。独りの空間としては玄関のソファや掃き出し窓から外を見て過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の使い慣れた家具の持ち込みをお願いしている。ご本人の状況に合わせた居室づくりをご家族と相談しながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かり易いように居室の入り口に名前以外にも個別に動物の写真や貼り絵をつけている。		